

平成25年度 猪名川町・小学校 学習到達度調査の結果について

■ 調査目的

- 猪名川町教育委員会小学校児童の学習状況を調査し、領域、観点、基礎・活用および小問ごとにその結果を示すことにより、学習指導上の問題点および改善点を明らかにする。

■ 調査内容

- 調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて学力調査を実施した。

■ 調査対象

- 猪名川町内の公立小学校5年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

■ 調査日

- 平成25年4月24日（水）

■ 調査結果

【小学校の調査結果】

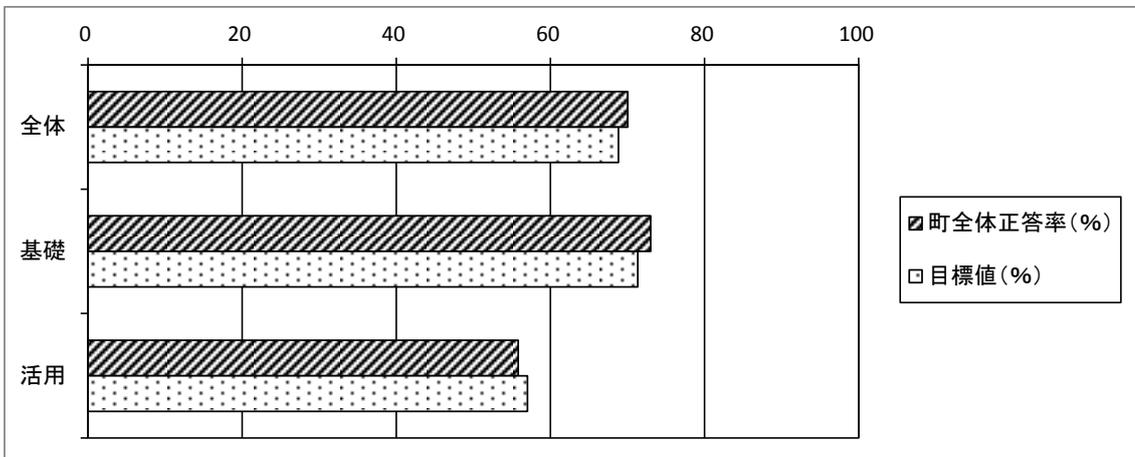
		町全体 正答率 (%)	目標値 (%)	目標値との差	受験者数
小学校・ 5年生	国語	70.0	68.8	1.2	344
	算数	66.5	63.9	2.6	344

- 町全体の正答率は、国語・算数ともに目標値を上回っていて良好である。

■小学校第5学年【国語】

(1) 基礎・活用正答率

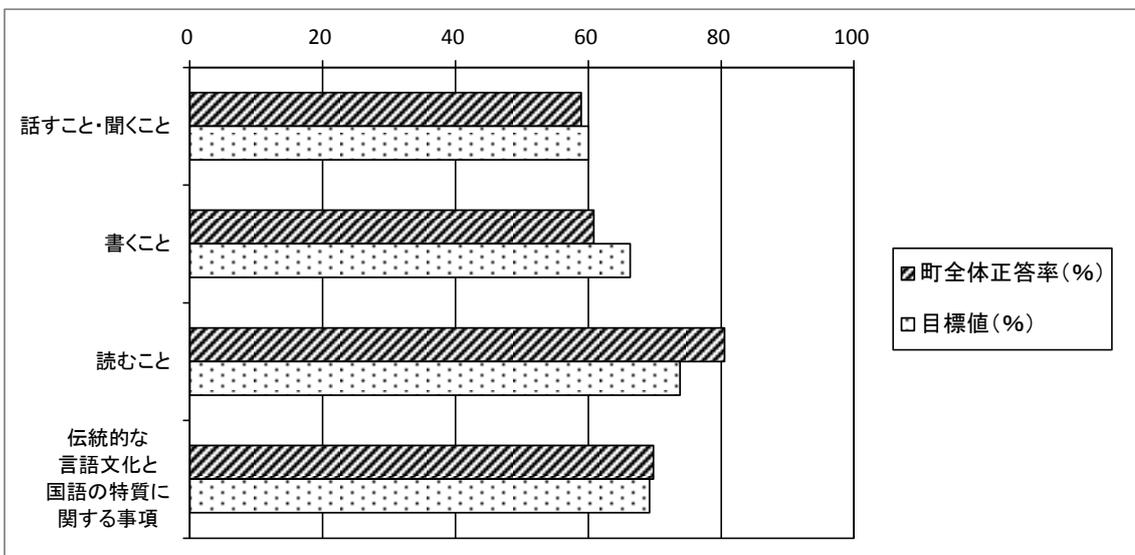
	全体	基礎	活用
町全体正答率 (%)	70.0	73.0	55.8
目標値 (%)	68.8	71.3	57.0
目標値との差	1.2	1.7	▲ 1.2



●基礎・活用別に見ると、基礎問題は73.0%と目標値を1.7ポイント上回っているが、活用問題は55.8%で目標値を1.2ポイント下回っている。活用の中でも表現力が弱いことが課題である。

(2) 領域別正答率

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
町全体正答率 (%)	58.9	60.8	80.5	69.8
目標値 (%)	60.0	66.3	73.8	69.2
目標値との差	▲ 1.1	▲ 5.5	6.7	0.6



●領域別に見ると、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は目標値を上回り良好であるが、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」は目標値を下回っていて課題がある。

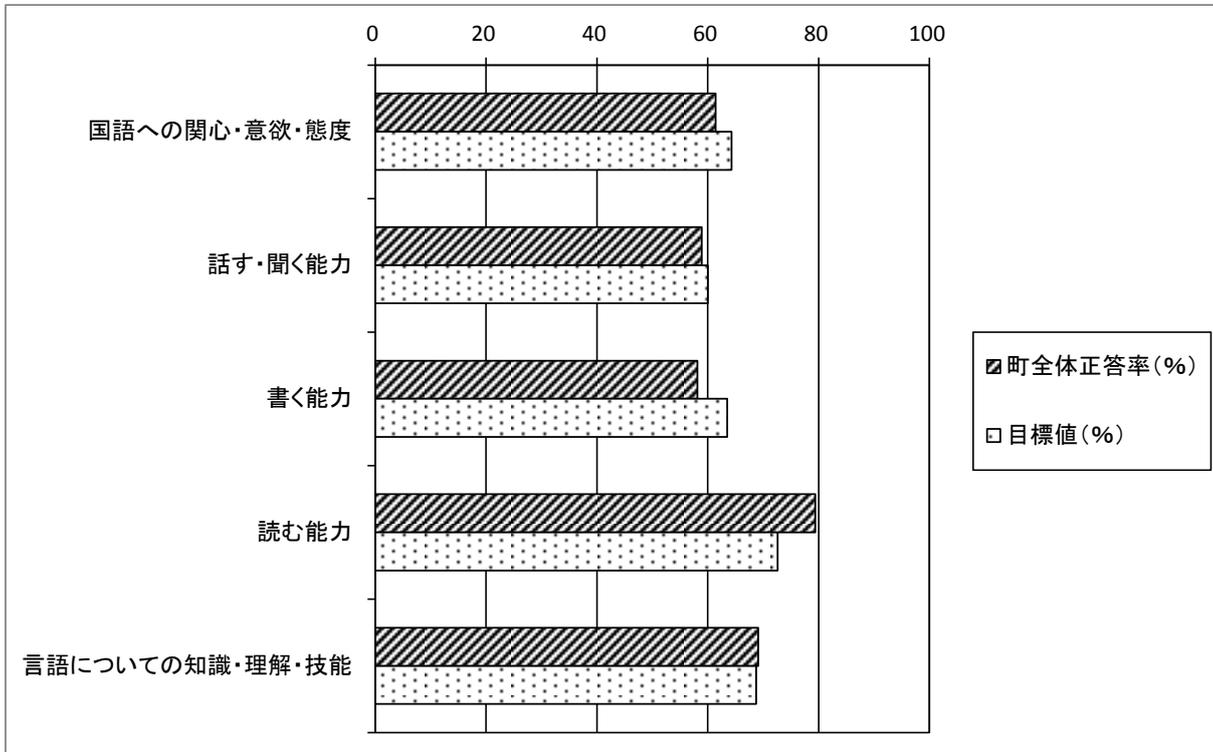
特に「読むこと」は非常に良好である。

「聞くこと・話すこと」の領域では、発表の内容を聞き取る力と表現力をつけていく必要がある。

「書くこと」の領域では、漢字を書くことと、条件作文で指定された長さで書いたり、2段落構成で書くことなどに課題がある。

(3) 観点別正答率

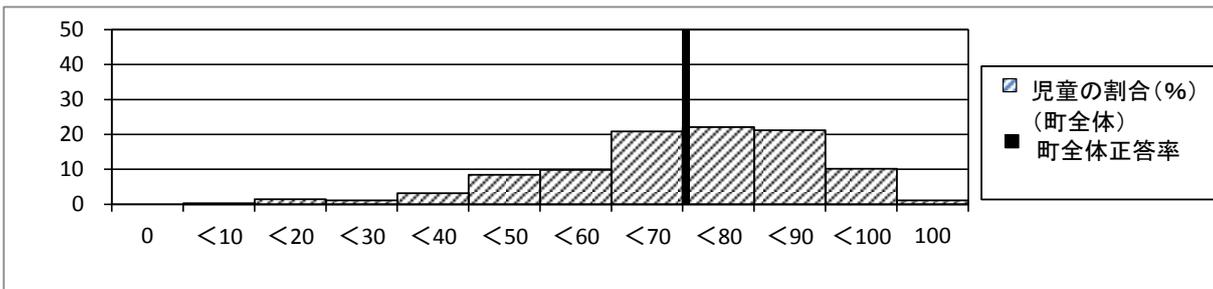
	町全体正答率 (%)	目標値 (%)	目標値との差
国語への関心・意欲・態度	61.4	64.3	▲ 2.9
話す・聞く能力	58.9	60.0	▲ 1.1
書く能力	58.1	63.5	▲ 5.4
読む能力	79.4	72.6	6.8
言語についての知識・理解・技能	69.1	68.7	0.4



●観点別で見ると、「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」は目標値を上回っているが、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」は目標値を下回っていて課題がある。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
児童の割合 (%) (町全体)	0.0	0.3	1.5	1.2	3.2	8.4	9.9	20.9	22.1	21.2	10.2	1.2



●町全体で正答率80%以上の児童が32.6%と、昨年度43.1%を大きく下回っている。一方、正答率50%以下の児童は14.6%と、昨年度13.7%を超えている。上位層が少なく、中位層が多くなっている傾向がある。

(5) 課題のある小問についての分析

大問1(3)

【発表の内容を聞き取る】

	町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	32.7	50.0	▲ 17.3	50.5	▲ 17.8
出題のねらい	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き、メモをとることができる。				
対策	発表の場面では、話し手の意図を考えながら聞き、自分の意見と比較して考えをまとめることが大切である。そのためには、資料を提示しながら説明したり、それを聞いて助言や提案をしたりする活動が有効である。こうした話し合い活動を数多く経験させ、実際の生活場面で生かせるようにしたい。				

大問2(2)④

【漢字を書く】

	町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	45.6	60.0	▲ 14.4	61.6	▲ 16.0
出題のねらい	第4学年配当漢字を書くことができる。				
対策	送り仮名を間違いやすい漢字については、年間を通して意識して書かせるように指導することが大切である。また、わからない漢字があれば、その都度、辞書などで確認させ、正しい漢字の知識を身につけさせたい。				

大問6(2)

【パンフレットと話し合いを読み取る】

	町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	52.0	55.0	▲ 3.0	51.4	0.6
出題のねらい	資料と話し合いを関連付けて考えることができる。				
対策	資料と会話文を関連づけながら、合理的な計画を立てる問題である。日頃の授業でも、複数の資料を読み解き、自分たちの計画を図や文章にまとめる活動を取り入れ、児童が意欲をもって一連の活動（資料収集→読解→選択判断→表現）に取り組ませることが大切である。				

大問7

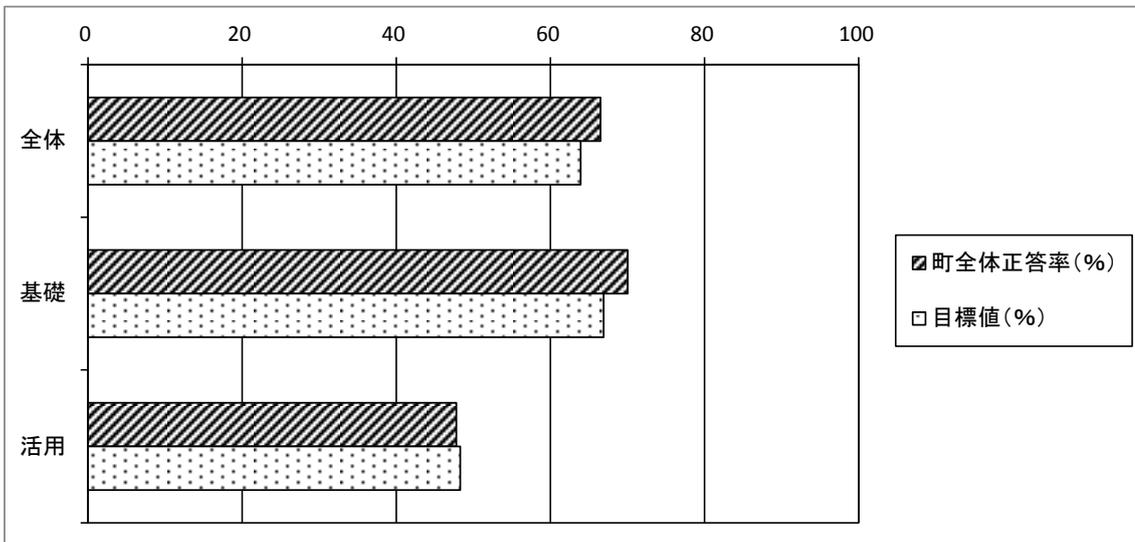
【作文】

	町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率(%)	55.5	65.0	▲ 9.5	67.1	▲ 11.6
出題のねらい	指定された長さで文章を書くことができる。				
対策	121～180字で書く問題である。180字程度で「下級生の手本になる上級生」及びその理由を記述するには、はじめの2行で自分の考えを述べ、後の6～7行程度でいくつかの例を挙げながら理由を述べる、という簡単な構成を考えてから取り組ませるとよい。日頃から構成表を活用し、どのような内容をどの順で書いていくのか、見通しを立てて記述させることが大切である。				

■小学校第5学年【算数】

(1) 基礎・活用正答率

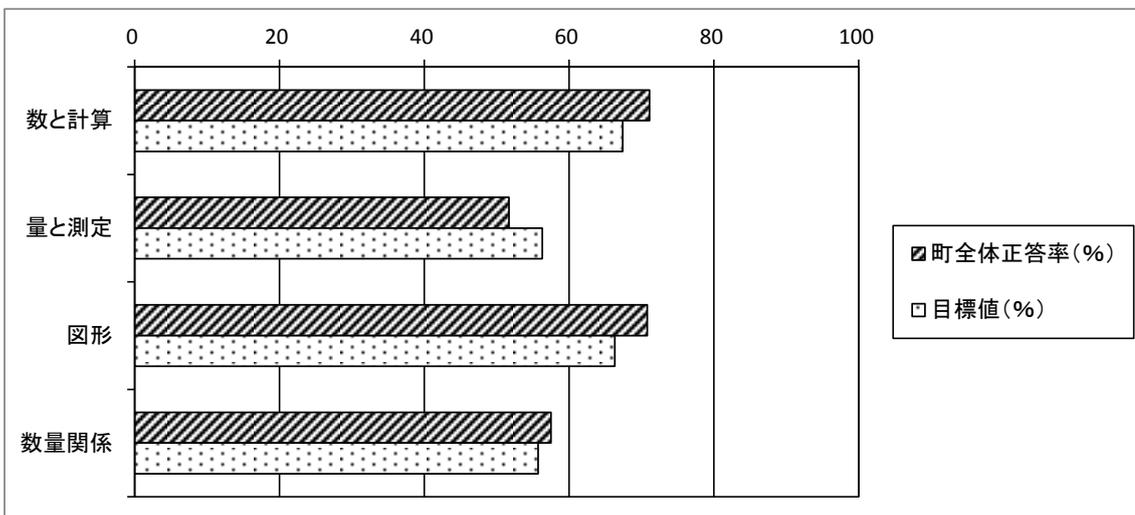
	全体	基礎	活用
町全体正答率 (%)	66.5	70.0	47.8
目標値 (%)	63.9	66.9	48.3
目標値との差	2.6	3.1	▲ 0.5



●基礎・活用別にみると、基礎問題は70.0%と目標値を3.1ポイント上回っているが、活用問題は47.8%で目標値を0.5ポイント下回っている。目標値より若干であるが、思考・判断力が下回っている。

(2) 領域別正答率

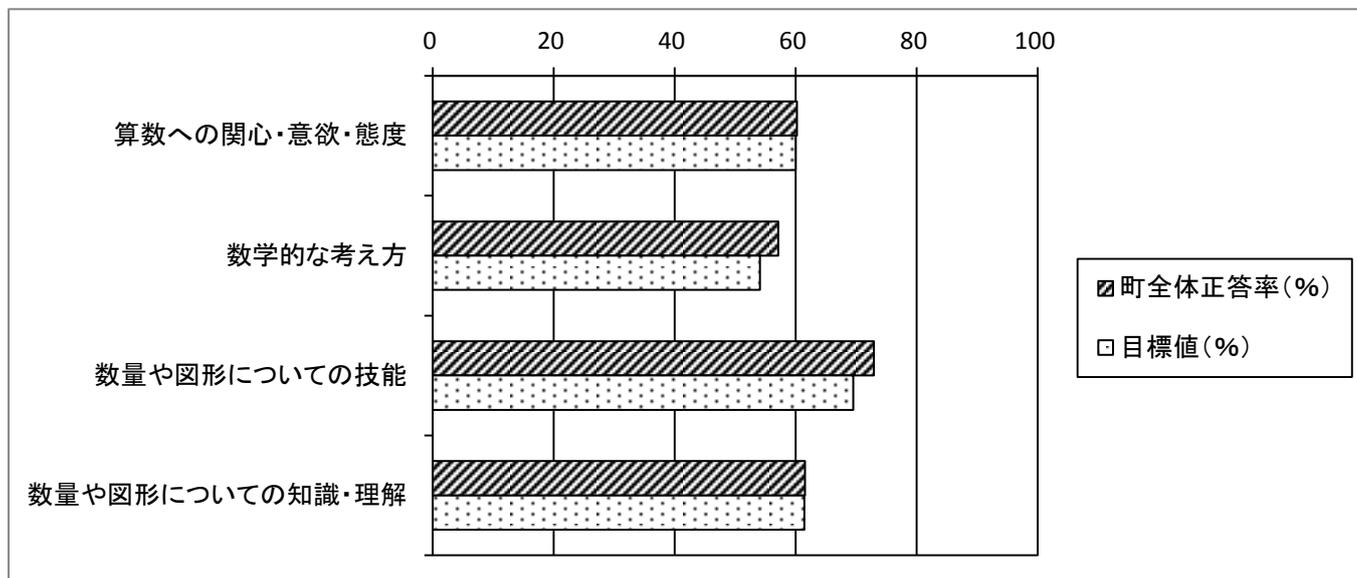
	数と計算	量と測定	図形	数量関係
町全体正答率 (%)	71.1	51.7	70.8	57.5
目標値 (%)	67.4	56.3	66.3	55.7
目標値との差	3.7	▲ 4.6	4.5	1.8



●領域別にみると、「数と計算」「図形」「数量関係」は目標値を上回り良好であるが、「量と測定」は目標値を下回っている。昨年同様、角の大きさの見当をつける問題と、身近にあるものの面積を推察する問題に課題がある。

(3) 観点別正答率

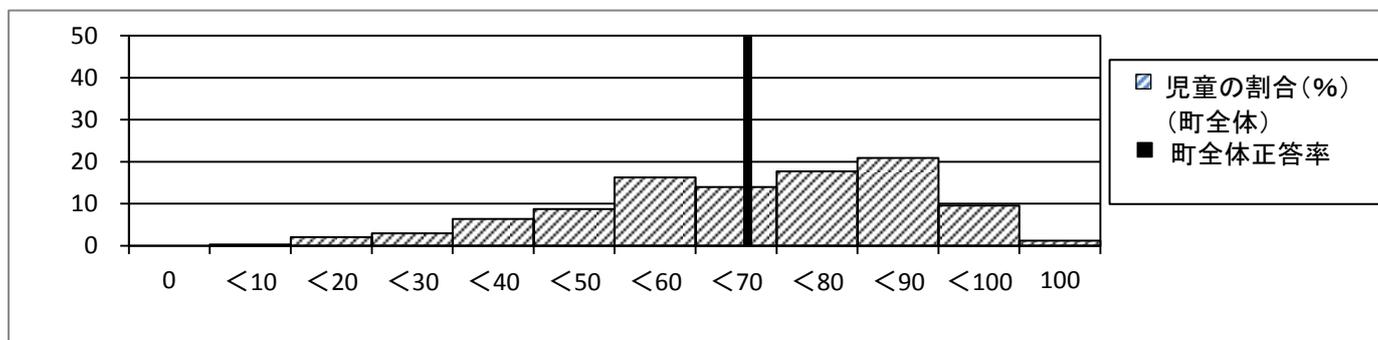
	町全体正答率 (%)	目標値 (%)	目標値との差
算数への関心・意欲・態度	60.2	60.0	0.2
数学的な考え方	57.1	54.1	3.0
数量や図形についての技能	72.9	69.5	3.4
数量や図形についての知識・理解	61.5	61.4	0.1



●観点別で見ると、すべての領域で目標値を上回っている。
特に、「数学的な考え方」「数量や図形についての知識・理解」は非常に良好である。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
児童の割合 (%) (町全体)	0.0	0.3	2.0	2.9	6.4	8.7	16.3	14.0	17.7	20.9	9.6	1.2



●正答率80%以上の児童が31.7%で、昨年の38.3%より下回っている。
また、正答率50%以下の児童は20.3%で、昨年の28.7%より良好になった。
50%台の中位層が増えている。

(5) 課題のある小問についての分析

大問5

【分数】

	町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	56.7	60.0	▲ 3.3	60.2	▲ 3.5
出題のねらい	帯分数、仮分数、真分数、整数を大小順に並べることができる。				
対策	誤答の原因としては、仮分数と帯分数の関係を理解していないことや、分数と1の関係を理解していないことが考えられる。分数の指導にあたっては、数直線を用いて、単位分数のいくつ分という見方や、1などの整数との関係を関連づけて指導することが必要である。				

大問11(2)

【角の大きさ】

	町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	49.4	60.0	▲ 10.6	55.1	▲ 5.7
出題のねらい	角の大きさの見当をつけることができる。				
対策	角の大きさの見当をつけるには、角の大きさを回転の大きさとしてとらえることが大切である。ここでは、問われている角度が2直角より大きく3直角より小さいことがわかれば、正答にたどり着くことができる。また、この問題に関連して、 180° より大きい角度を測るには、 180° の補助線を引き、分度器で残りの角度を測ればよいことも指導しておきたい。				

大問14

【いろいろな形】

	町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	58.7	55.0	3.7	56.4	2.3
出題のねらい	四角形の対角線の性質を理解している。				
対策	図形では、定義、作図、性質を学習する。四角形では、作図の後に対角線の性質について学習するが、新しく学習した対角線の性質を利用して作図することを通して、対角線についての理解を深めることができる。特にひし形は、対角線から作図すると簡単にかける。このように定義や性質を活用して作図することで、図形への理解を深めたい。				

大問17

【折れ線グラフと表】

	町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	56.7	60.0	▲ 3.3	58.6	▲ 1.9
出題のねらい	折れ線グラフの特徴と有用性を理解している。				
対策	グラフの指導にあたっては、かき方の指導も大切であるが、グラフに表すよさがわかるように指導することが大切である。折れ線グラフには、その傾きで変化の様子がわかるというよさがある。棒グラフとの違いとそれぞれのグラフのよさを、児童に考えさせることも有効である。				